

が多い。

2. 調査・研究を推進していく上で困っている・課題と思っていることの順位に差がみられた。指導的立場の保健婦は「目的・目標の設定」「結果のまとめ」をあげており、スタッフ保健婦は「問題の把握と明確化」「結果の分析・解釈」をあげていた。

3 保健婦が調査・研究プロセスにおいて最も重視しなければならない段階は問題の把握と明確化、目的・目標の設定である。保健婦の日常活動における問題点を研究テーマに結びつける過程が大切であり、指導的立場の保健婦の力量に負うところが大きい。そのための指導内容、方法、工夫など具体的なものを有している必要がある。次に調査の実際や結果の分析の段階として、保健婦が強化しなければならない能力としてデータ分析、統計に関する基礎能力、ソフト活用などである。そのため演習を含めた現任教育が必要である。

4. 聞き取り調査の結果から、各段階に共通する内容を抽出し調査・研究プロセスにそって「保健活動に関する調査・研究を実施する上で必要な事項」「指導・助言上の留意事項」「指導・助言上の工夫」(必要とすること)の三つの視点から『保健婦の調査・研究指導指針(案)ー調査・研究プロセスにそった指導・助言方法ー』を作成した。さらに、保健婦が調査・研究をする上で知りたい知識・技術、疑問点を24項目に整理して、『保健婦の調査・研究に関するQ&A』を加えた。なお、指導指針(案)に『保健婦の調査・研究を実施する上で困っている・課題と思っていること』を加えた。

次年度は、これらの指導指針(案)について、職場内教育、市町村支援等に活用できるものか、評価・検討を加え、実践的な保健婦の調査・研究指導指針として精選する計画である。

#### F. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

#### G. 知的所有権の取得状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他

#### 引用・参考文献

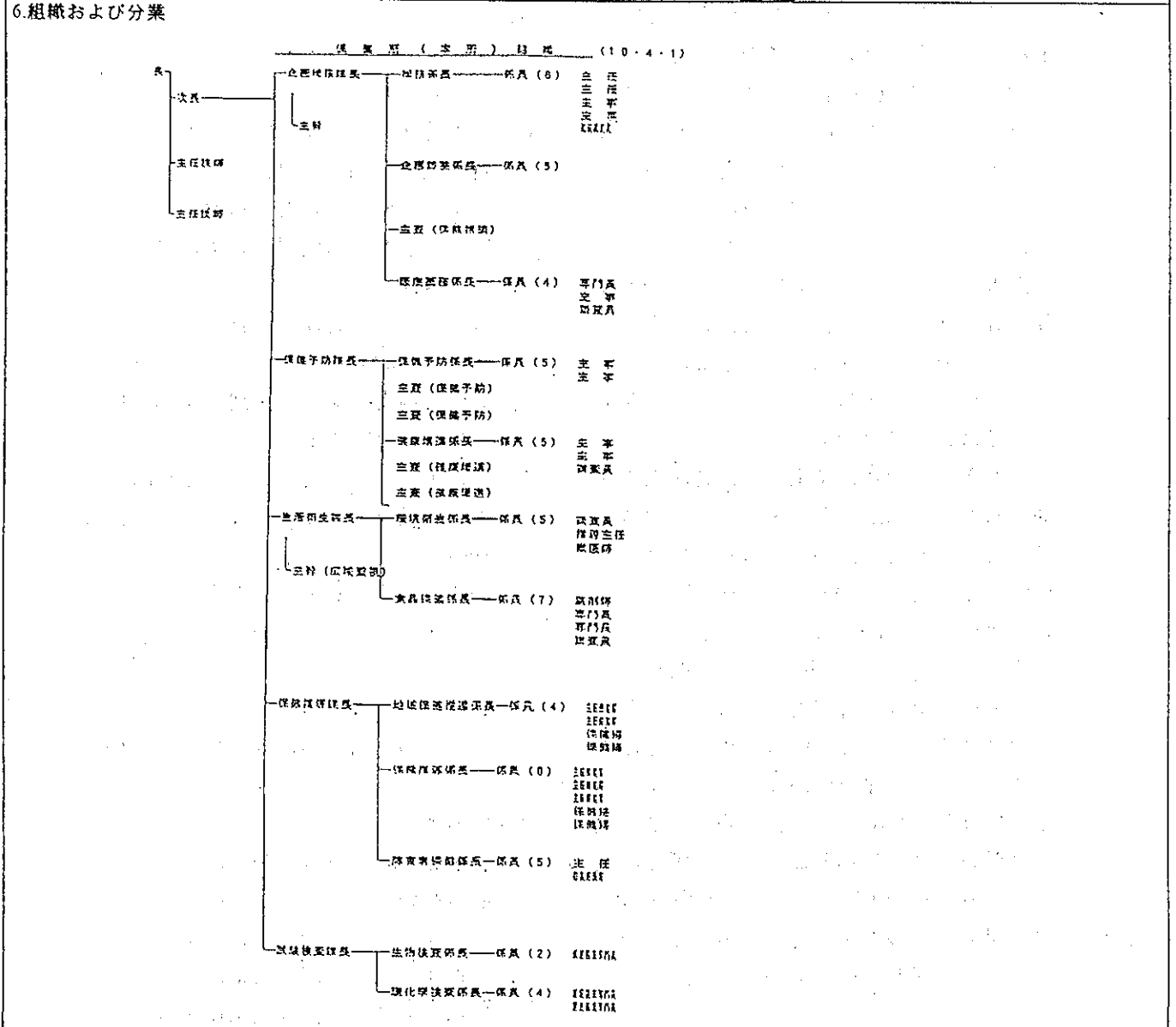
- 1) 丸山美知子他：保健婦の調査・研究の資質向上に関する研究. 平成10年度厚生科学研究報告書. 1998
- 2) 厚生省通知：保健婦活動指針について. 1998
- 3) 金川克子：看護研究の動向と研究への誘い 量的研究から質的研究の流行、そして両者の統合. 保健婦雑誌、1997 ; 53(3) : 174-176
- 4) D. f. ポーリット他著、近藤潤子監訳：看護研究 原理と方法. 医学書院、1994
- 5) 数間恵子他：看護研究のすすめ方・よみ方・つかい方. 日本看護協会出版会、1997
- 6) 黒田裕子：看護研究 スタッフを指導するために. 日本看護協会出版会、1996

#### 研究協力者

- |       |           |
|-------|-----------|
| 山田和子  | (国立公衆衛生院) |
| 植田悠紀子 | (国立公衆衛生院) |
| 石井享子  | (国立公衆衛生院) |
| 鳩野洋子  | (国立公衆衛生院) |
| 福島富士子 | (国立公衆衛生院) |

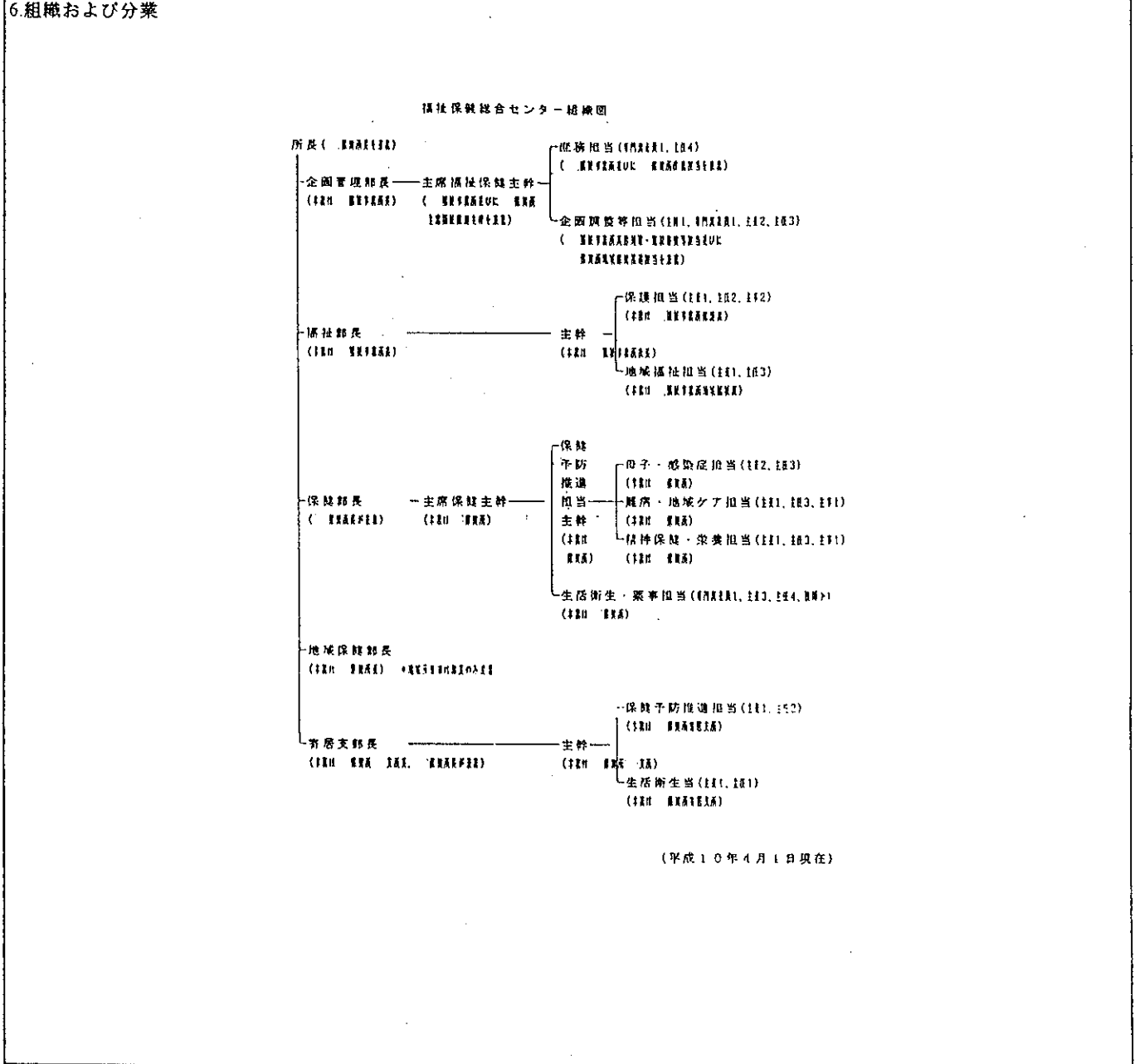
表1 調査対象施設の概況

保健所の概況	
1.保健婦数	保健所： 10人 管内の市町村： 154人 (管内市町村数 1市16町3村)
2.保健婦の活動形態	1.地区分担制 2.業務分担制 <del>3.地区分担制と業務分担制の併用</del> 4.その他 ( )
3.調査・研究を所管している部署	[企画総務]課 [企画調整 ]係 職員数 7人(そのうち保健婦 1人)
4.管内の市町村保健婦からの調査・研究相談窓口はありますか。	ある (主な指導・担当者の職種 事務及び保健職 ) なし
5.貴保健所の保健婦の調査・研究に関する指導は誰が行っていますか。	(1)所内 1) 担当者が決まっている ①保健婦 (職位: ) ②保健婦以外 (職種: 職位: ) ② 担当者が決まっていない ①保健婦 (職位: 保健婦相互 ) ②保健婦以外 (職種: 医師 職位: 所長、主任技師) (2)所外 ①大学 2)研究所 ①その他 (看護学院 )



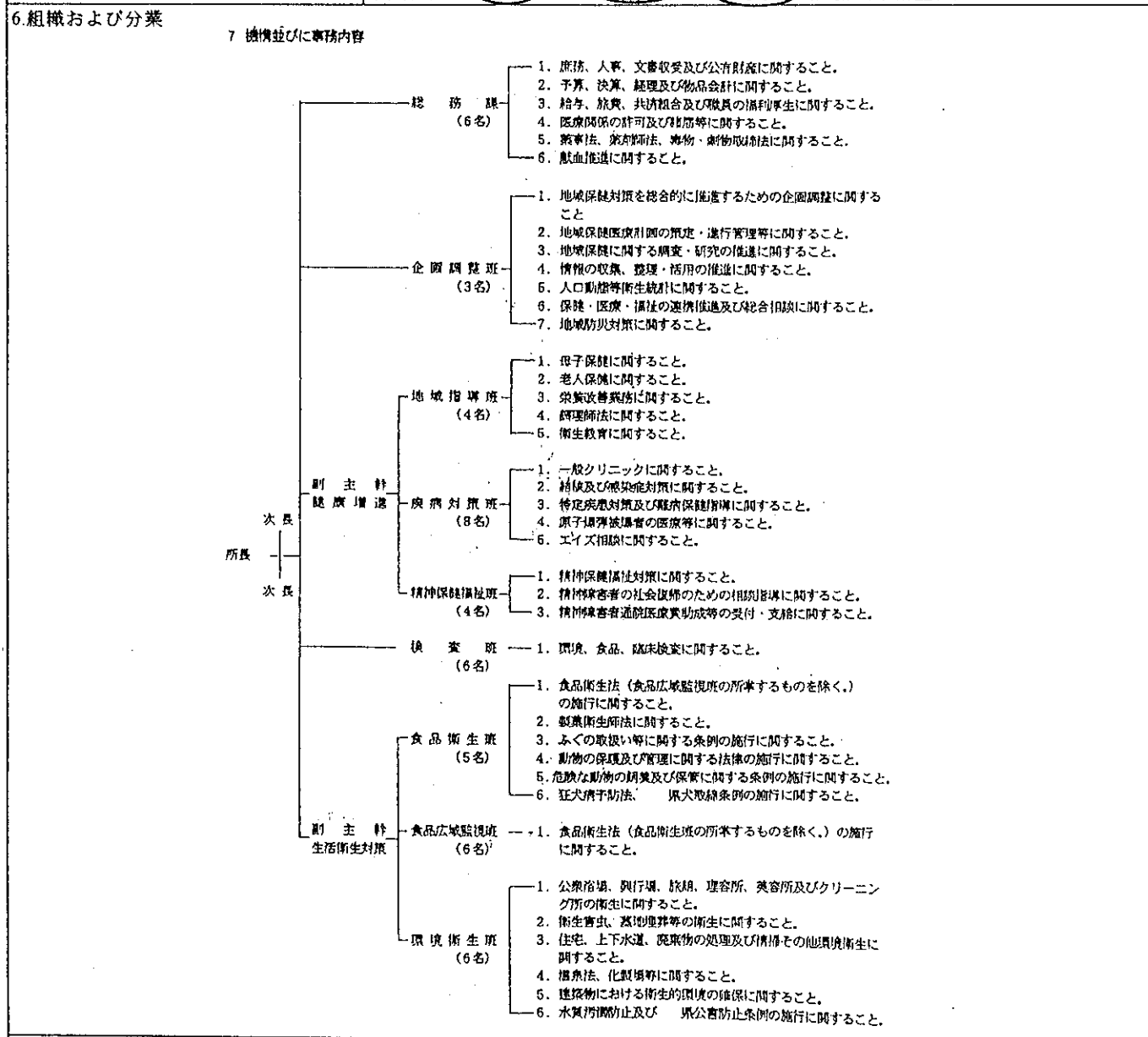
7. 調査・研究状況	
	1)テーマ名 2)目的 3)A種類 B方法 4)対象者数 5)参画状況
1.	移送サービス調査研究 1 1 1 4 1~7
2.	N村のライフスタイルと基本健康診査との関連について 1 1 1 4 1~7
3.	健康づくりシステム推進事業 1 1 1 4 1~7
4.	妊産婦生活実態調査 1 1 1 4 1~6
5.	特定疾患患者療養生活実態調査 1 1 1 4 1.2

保健所の概況	
1.保健婦数	保健所：11人 管内の市町村：33人（管内市町村数1市5町1村）
2.保健婦の活動形態	1.地区分担制 2.業務分担制 3.地区分担制と業務分担制の併用 4.その他（
3.調査・研究を所管している部署	【保健予防推進担当】課 [ ] 係 職員数 16人（そのうち保健婦 8人）
4.管内の市町村保健婦からの調査・研究相談窓口はありますか。	ある（主な指導・担当者の職種 保健婦 なし
5.貴保健所の保健婦の調査・研究に関する指導は誰が行っていますか。	(1)所内 1) 担当者が決まっている ①保健婦（職位：主席主官） ②保健婦以外（職種： 職位： ) 2) 担当者が決まっていない ①保健婦（職位： ) ②保健婦以外（職種： 職位： )
	(2)所外 1)大学 2)研究所 3)その他（基本的にはなし）



7.調査・研究状況	
1)テーマ名	2)目的 3)A種類 B方法 4)対象者数 5)参画状況
1. 厚生科学研究 福祉保健総合センター管内における地域保健の推進に関するモデル事業	システム構築 2 3 1～7
2. 地域保健推進特別事業 「地域療育のシステム化事業」	システム構築 2 1～7
3. 地域保健推進特別事業 「沼町をモデルとした地域在宅介護支援事業」	システム構築 2 1～7
4. 地域保健活動モデル事業 「地域保健情報提供事業」	システム構築 2 1～7

健所の概況	
1.保健婦数	保健所： 11人 管内の市町村： 77人 (管内市町村数 2市 町 村)
2.保健婦の活動形態	1.地区分担制 2.業務分担制 <del>3.地区分担制と業務分担制の併用</del> 4.その他 (
3.調査・研究を所管している部署	[健康三班 (地域指導、精神保健婦福祉、疾病対策) 及び企画調整班] 課 [ ] 係 職員数 19人 (そのうち保健婦 10人)
4.管内の市町村保健婦からの調査・研究 相談窓口はありますか。	ある (主な指導・担当者の職種 <u>なし</u> )
5.貴保健所の保健婦の調査・研究に関する指導は誰が行っていますか。	(1)所内 1) <u>担当者が決まっている</u> ①保健婦 (職位： ) ②保健婦以外 (職種： 職位： ) 2) 担当者が決っていない ①保健婦 (職位： ) ②保健婦以外 (職種： 職位： ) (2)所外 ① <u>大学</u> ② <u>研究所</u> ③ <u>その他</u> (国立公衆衛生院)

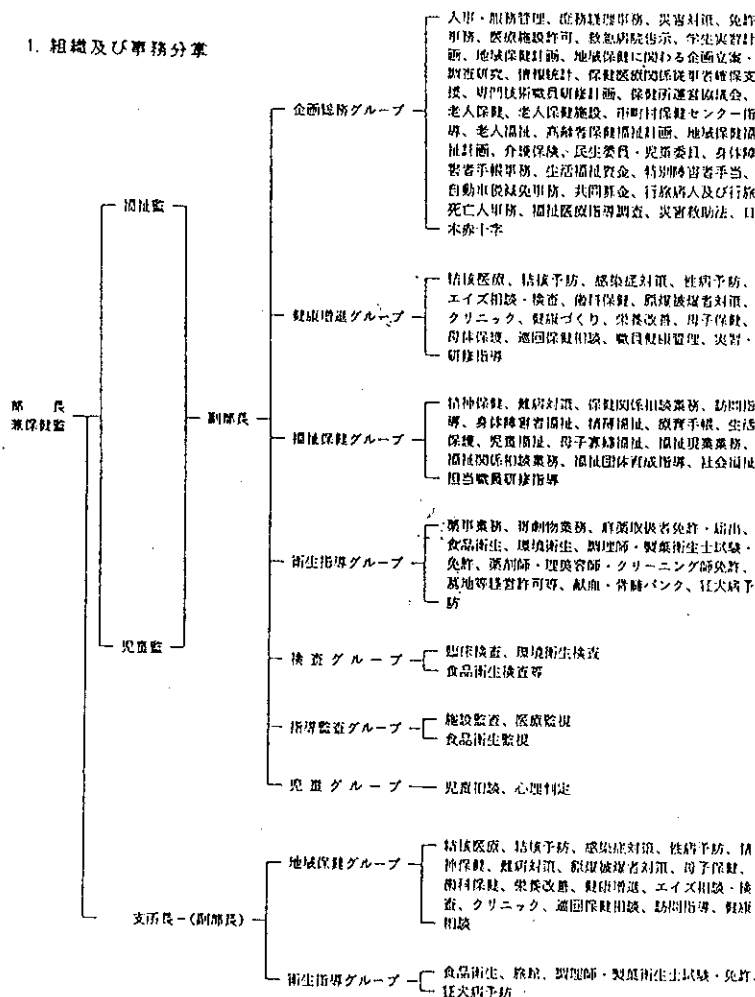


7. 調査・研究状況					
1) テーマ名	2) 目的	3) A 種類	B 方法	4) 対象者数	5) 参画状況
1. 乳児期からの家庭内禁煙対策	1	1	1	5	1~7
2. 思春期問題対応等に関する調査研究	1	1	1	5	1~7
3. 在宅ケアの質の確保に果たす保健所の役割	1.3	1.2	1	3	1~7
4. 難病患者実態調査	1	1	1	4	1~7
5. 訪問看護実態調査	1	1	1	2	1~7
6. 都市部における結核対策の在り方	4	2	2.3	6	1~7

保健所の概要	
1.保健婦数	保健所： 14人 管内の市町村： 人 (管内市町村数 2市13町 2村)
2.保健婦の活動形態	1.地区分担制 2.業務分担制 3.地区分担制と業務分担制の併用 4.その他 ( )
3.調査・研究を所管している部署	[企画総務G]課 [ ] 係 職員数 13 人(そのうち保健婦 2 人)
4.管内の市町村保健婦からの調査・研究相談窓口はありますか。	ある (主な指導・担当者の職種 保健婦 ) なし
5.貴保健所の保健婦の調査・研究に関する指導は誰が行っていますか。	(1)所内 1) 担当者が決まっている ①保健婦 (職位：副参事、主幹、主査) ②保健婦以外 (職種：医師 職位：部長) 2) 担当者が決まっていない ①保健婦 (職位： ) ②保健婦以外 (職種： 職位： ) (2)所外 ①大学 ②研究所 3)その他 ( )

6.組織および分業

1. 組織及び事務分掌



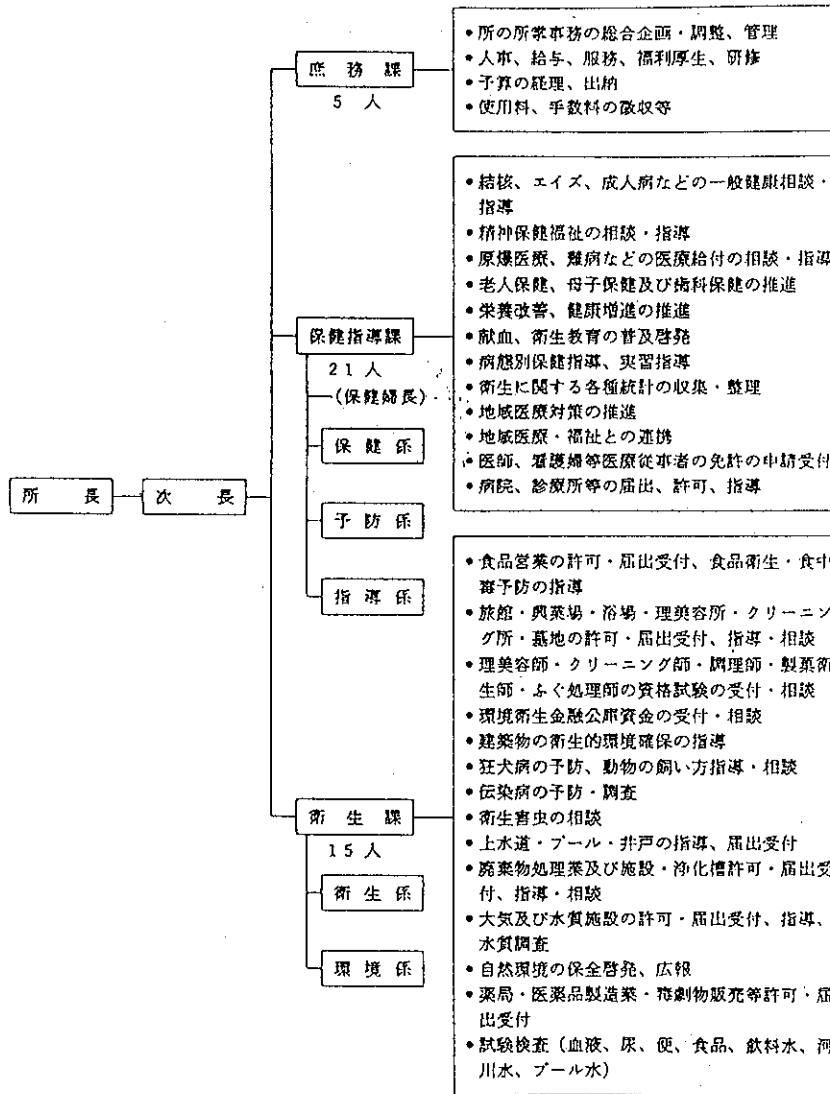
(平成10年4月1日現在)

7. 調査・研究状況					
1) テーマ名	2) 目的	3) A 種類	B 方法	4) 対象者数	5) 参画状況
1. 乳幼児期に経験する事故の実態調査	1	1	2	5	1~7
2. 就学時健康診断から見た3歳児健康診査における評価についての一考察	2	1	3	3	1~7
3. 保育所・市町村における乳幼児の事故防止に関するアンケート調査	1	1	2	3	1~7
4. 障害児把握調査	1	1	1	4	1~7
5. 寝たきりの原因となる痴呆・運動障害患者の在宅介護に関する研究	1	1	2	3	1.2.6.7.8
6. 高齢者の住宅内事故に関する研究	1	1	1	5	1~7
7. 在宅ケア者の居住環境調査	1	1	1	4	1~7
8. 先導的技術開発支援事業 福祉用具・医療用具使用実態調査	1	1	1	4	2.3.4.5.6.
9. 住宅改善評価調査	1	2	2	4	2.3.4.5.6
	2	2	2	2	1~7

保健所の概況	
1.保健婦数	保健所： 12人 管内の市町村： 40人 (管内市町村数 2市 1町 1村)
2.保健婦の活動形態	1.地区分担制 2.業務分担制 <del>3.地区分担制と業務分担制の併用</del> 4.その他 ( )
3.調査・研究を所管している部署	[ 2 ] 課 [ 5 ] 係 職員数 人(そのうち保健婦 12人)
4.管内の市町村保健婦からの調査・研究 相談窓口はありますか。	ある(主な指導・担当者の職種 保健指導課 保健婦 ) なし
5.貴保健所の保健婦の調査・研究に関する指導は誰が行っていますか。	(1)所内 1) <u>担当者が決まっている</u> ①保健婦(職位：課長、係長、業務担当者)②保健婦以外(職種:医師 職位:所長、主任) 2) 担当者が決まっていない ①保健婦(職位： ) ②保健婦以外(職種： 職位： ) (2)所外 1)大学 2)研究所 3)その他 ( )

6.組織および分業

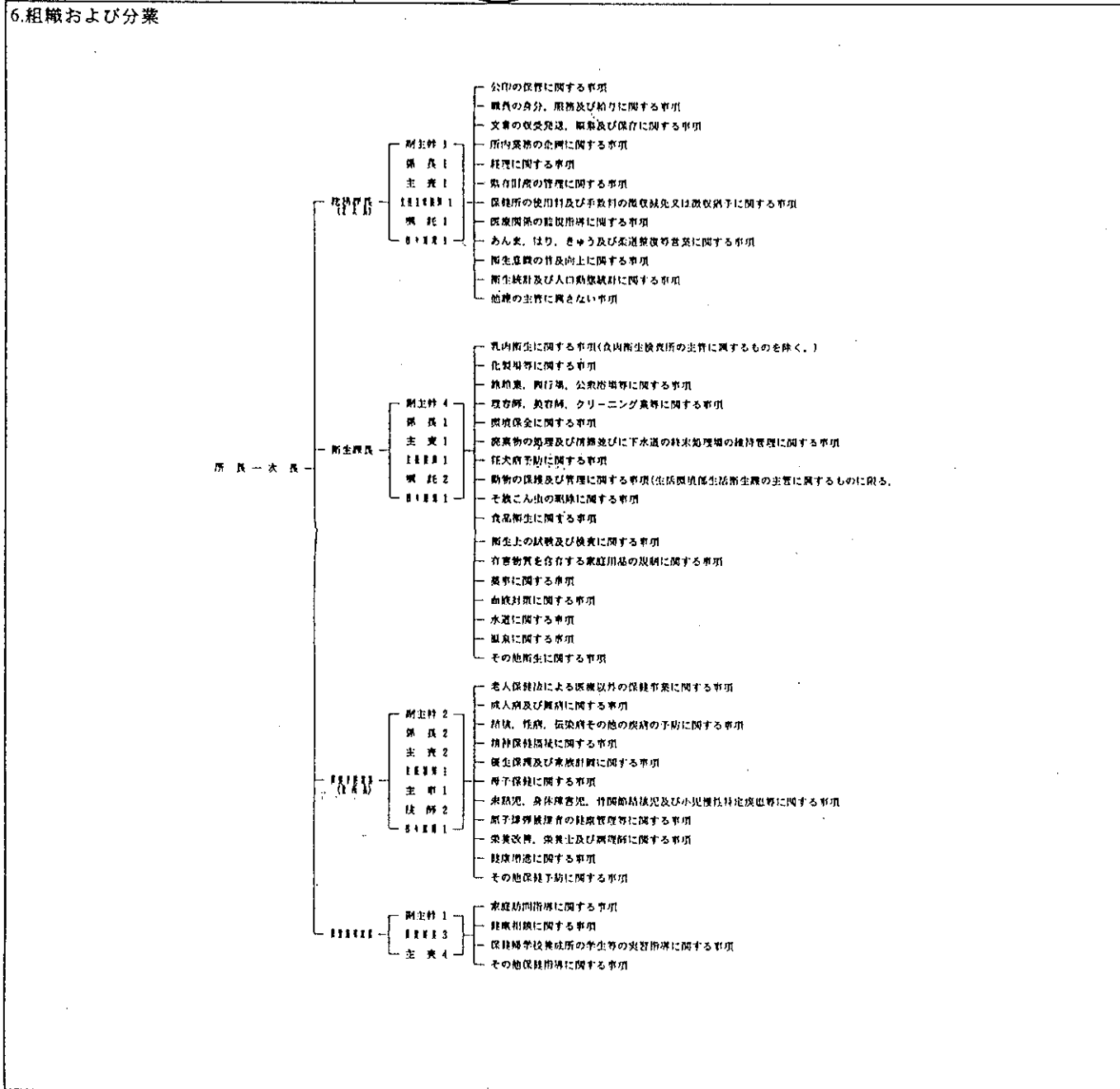
6 保健所組織及び事務分掌 (平成9年度)



7.調査・研究状況

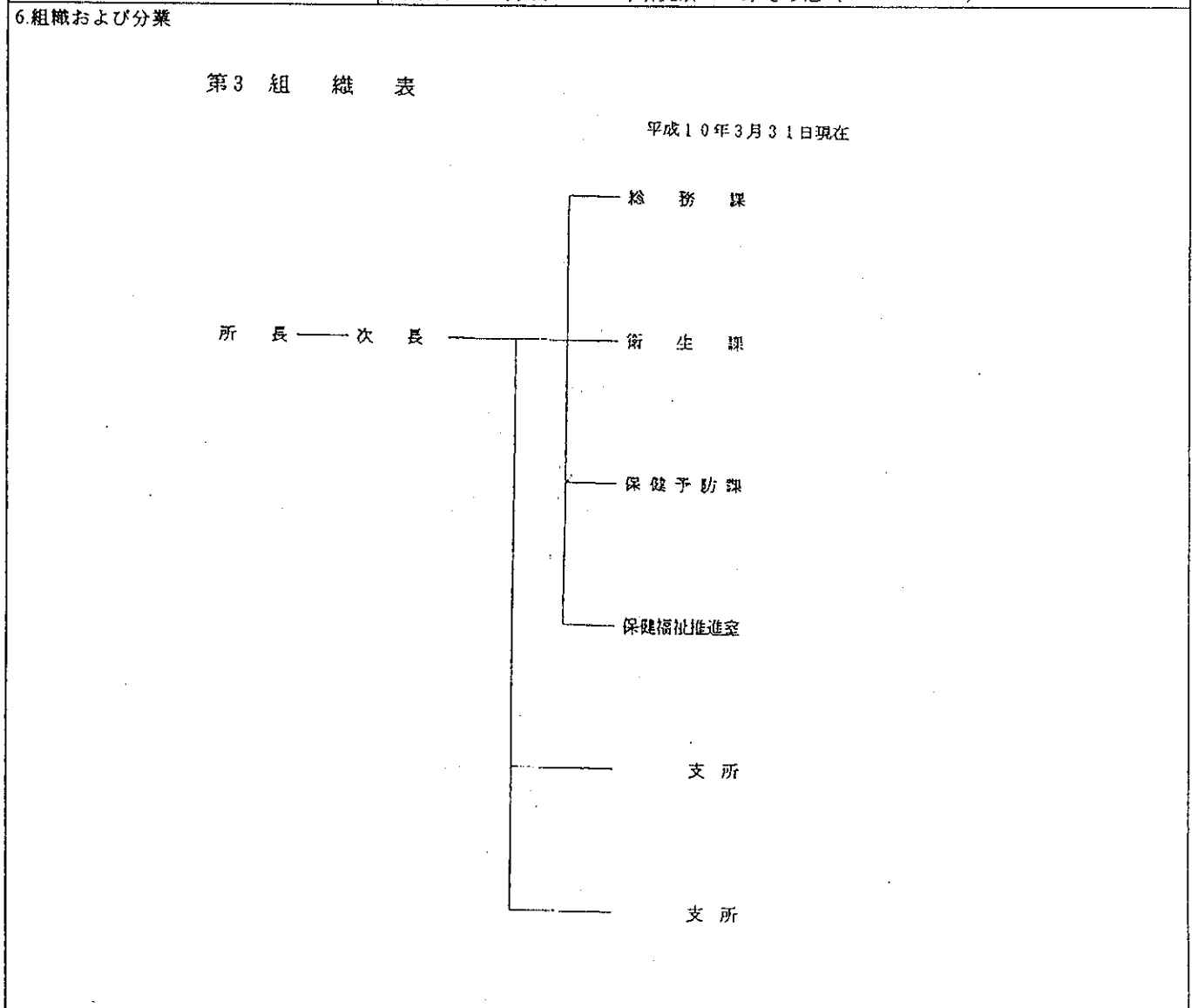
1)テーマ名	2)目的	3)A種類 B方法	4)対象者数	5)参画状況
1 思春期骨量の実態に関する考察	1	1 1.3	4	1~7

保健所の概況	
1.保健婦数	保健所： 9 人 管内の市町村： 25 人（管内市町村数 市 8町 村）
2.保健婦の活動形態	1.地区分担制 <del>2.業務分担制</del> 3.地区分担制と業務分担制の併用 4.その他（
3.調査・研究を所管している部署	[保健指導] 課 [ ] 係 職員数 人(そのうち保健婦 人)
4.管内の市町村保健婦からの調査・研究 相談窓口はありますか。	ある（主な指導・担当者の職種 なし）
5.貴保健所の保健婦の調査・研究に関する指導は誰が行っていますか。	(1)所内 1) 担当者が決まっている ①保健婦（職位： ） ②保健婦以外（職種： 職位： ） <del>①保健婦（職位： ） ②保健婦以外（職種： 職位： ）</del> ①保健婦（職位： ） ②保健婦以外（職種： 職位： ） (2)所外 ①大学 2)研究所 3)その他（ ）



7.調査・研究状況					
	1)テーマ名	2)目的	3)A種類 B方法	4)対象者数	5)参画状況
1.	保健所における乳幼児保健相談の評価その1	2	1 3	4	1~7
2.	保健所における乳幼児保健相談の評価その2	2	1 3	4	1~7
3.	新規登録患者状況分析	2	1 3	4	1~7

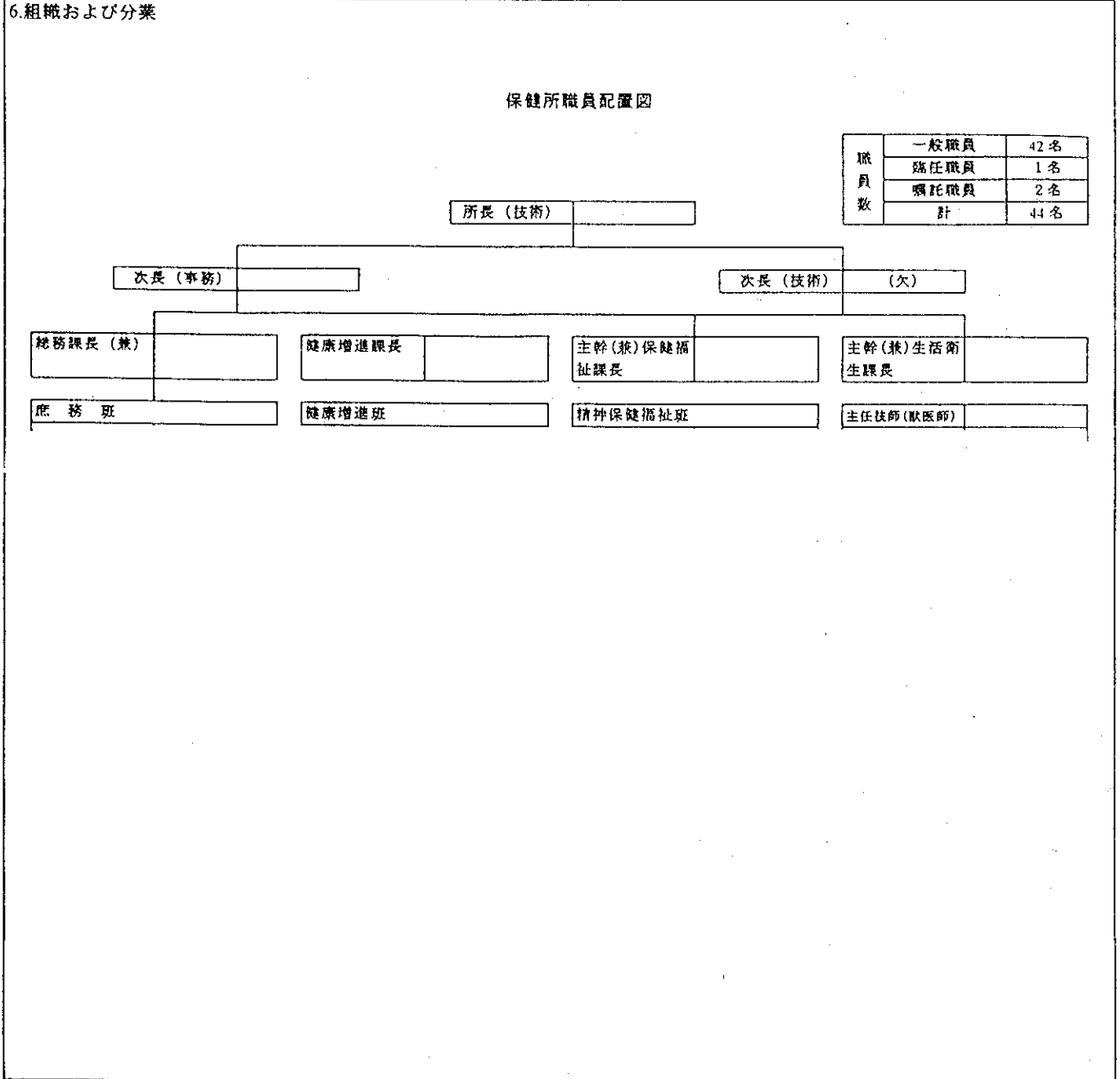
保健所の概況	
1.保健婦数	保健所：10 人 管内の市町村： 23 人 (管内市町村数 1市 町 村)
2.保健婦の活動形態	①地区分担制 ②業務分担制 ③地区分担制と業務分担制の併用 ④その他 ( )
3.調査・研究を所管している部署	[保健予防] 課 [ ] 係 職員数 17 人(そのうち保健婦 10 人)
4.管内の市町村保健婦からの調査・研究 相談窓口はありますか。	ある (主な指導・担当者の職種 ) なし
5.貴保健所の保健婦の調査・研究に関する指導は誰が行っていますか。	(1)所内 ① 担当者が決まっている ①保健婦 (職位：保健婦長 ) ②保健婦以外 (職種：医師 職位：所長 ) ② 担当者が決まっていない ①保健婦 (職位： ) ②保健婦以外 (職種： 職位： )
	(2)所外 ①大学 ②研究所 ③その他 ( )



7. 調査・研究状況					
1)テーマ名	2)目的	3)A種類	B方法	4)対象者数	5)参画状況
1. 介護保険若年特定疾病調査 (実態及びサービス意向)	1	1	2	2	7 その他モニタリング
① 介護保険 (府レベル)若年特定疾病調査	1.2.3	1.2	2	5	1.2.3.4.5.6
2. 結核 新患調査 (排菌PI) (ディレイ分析)	2	2	1	4	1.2.3.6.7
3. 脳卒中発症前調査	1	1	2	3	1.2.3.4.6.7
4. 介護保険 専門調査 (実態 ニーズ調査)	1	1	1	2	2.5.7
5. 医師会対象 在宅医療に関する実態調査	1	1	1	4	1~7
6. 結核 コホート調査	1	1	1	3	7
7. 厚生省 コホート研究	1	1	1.2	5	2.7



保健所の概況	
1.保健婦数	保健所： 13人 管内の市町村： 11 人（管内市町村数 1市 3町 2村）
2.保健婦の活動形態	1.地区分担制 ①業務分担制 3.地区分担制と業務分担制の併用 4.その他（
3.調査・研究を所管している部署	[総務] 課 [企画情報] 係 職員数 3 人(そのうち保健婦 人)
4.管内の市町村保健婦からの調査・研究 相談窓口はありますか。	ある(主な指導・担当者の職種 保健婦 ) なし
5.実保健所の保健婦の調査・研究に関する指導は誰が行っていますか。	(1)所内 1) 担当者が決まっている ①保健婦 (職位： ) ②保健婦以外 (職種： 職位： ) ② 担当者が決まっていなし ①保健婦 (職位：保健福祉課長(保健婦)) ②保健婦以外 (職種：医師 職位： 所 (2)所外 ①大学 ②研究所 3)その他 ( )



7.調査・研究状況						
1)テーマ名		2)目的 3)A種類 B方法 4)対象者数 5)参画状況				
1.	特定疾患患者生活面接調査	1	2	2	3	3.5.7
2.	小規模作業所の効果判定	2	2	1.3	2	1～7
3.	平良市における脳出血発症に関するケース・コントロール研究	1	1	2	4	1～7

表2 保健所保健婦からの聞き取り調査の集計結果

回答欄 調査・研究 プロセス	指導者 n=8				スタッフ n=23			
	保健婦が困って いること・課題 と思うこと	各段階で実施して いる指導・助耳		指導・助耳上の 実際の工夫 (必要と思うこと)	あなたが困って いること・課題 と思うこと	各段階で受けた 指導・助耳の内容		役立った・必要と 思った指導・助耳
		該当	重要			該当	重要	
<b>A 調査・研究の意義</b>								
1.調査・研究する必要性・意味を理解している	4	4	2	3	7	5	2	5
2.調査・研究の位置づけが明確である	4	4	3(1)	2	4	2	1	2
<b>B 問題の把握と明確化</b>								
1.地域におきている現象・問題を感じとる	2	2	1	1	9	4	2	2
2.現象・問題が生じた背景、原因を把握する	2	1	1	—	5	2	1	2
3.問題間の関係を整理し、総合的にとらえる	4	3	2(1)	2	5	5	2	3
4.問題の中から解決すべき課題を特定する	3	2	1(1)	1	6	5	—	3
5.課題解決に関連するデータ・情報を収集する	3	2	—(1)	2	11	5	—	3
6.文献、関係者などを通じ既知の情報を調べる	3	2	1	2	12	5	2	5
<b>C 目的・目標の設定</b>								
1.課題を調査・研究のテーマに結びつける	5	6	1	5	5	1	1	1
2.調査の目的・目標を具体的に表現する	2	1	1	—	6	2	1	1
3.調査・研究によってどのような結果が得られ そうか予測する	4	3	2	2	7	6	2	3
<b>D 調査の実態</b>								
1.研究の対象者を選択する	2	2	—	—	4	3	1	2
2.目的にあった調査・研究方法を選択する (統計調査か事例調査か)	2	2	—	1	4	3	—	4
3.目的に応じたデータ収集の方法を選択する (観察法か質問法か等)	4	4	2	2	6	3	—	3
4.目的に応じた調査表等を作成する	4	1	3	1	9	7	—	2
5.予備調査等の結果により方法や内容を修正す る	—	—	—	—	5	—	1	1
<b>E 結果の分析と解釈</b>								
1.目的に応じて収集結果を分析する	5	3	—	2	11	6	1	6
2.目的に照らして明らかになった事例を示す	3	2	2	1	7	4	1	3
3.調査結果と分析結果を解釈する	2	3	2	3	10	5	1	3
<b>F 結果のまとめ</b>								
1.目的から結果まで論旨が一貫している	6	5	1	3	6	6	2	5
2.わかりやすい、読みやすい文章・図表を作成 する	5	3	1	1	9	6	1	7
3.報告書を作成する	2	2	1	2	4	3	—	1
4.結果を地域住民、関係者に報告する	2	4	1	1	5	5	1	2
5.結果を研究誌等に発表する	4	4	1	2	4	3	—	2
6.結果を保健計画や事業計画等に生かす	4	2	1	1	4	3	—	1
<b>G 調査・研究のマネージメント</b>								
1.取り上げる課題の意義を周知に説明する	3	3	—	3	1	2	—	2
2.調査・研究計画書を作成する	3	2	—	1	5	1	—	2
3.調査・研究の円滑な実施に向け、職場内の合 意形成や進行管理する	2	2	—	2	6	4	—	4
4.調査・研究を保健婦業務として位置づける	5	3	1	2	5	3	1	2
5.研究費の予算化ができる	—	3	—	2	5	1	—	2
6.調査・研究の指導者の協力を得る	5	3	1	2	7	2	—	4
7.研究的視点から業務の評価が行えるよう後援 を指導する	4	3	—	2	5	1	—	1

保健所保健婦の調査・研究の指導状況等  
に関する調査

表 3 - 1 1 スタッフ保健婦が調査・研究を推進していく上で困っていること、課題と困っていること（指導的立場の保健婦の判断）

	A	B	C
	50歳代 係長級	50歳代、40歳代 課長級	50歳代 課長補佐級
A 調査・研究の意義 1.調査・研究する必要性・意味を理解している 2.調査・研究の位置づけが明確である	・調査・研究が保健婦業務であるという認識が低いこと ・研究を業務と切り離して考えている	・積極的に取り組む姿勢が少ない ・調査・研究を日常活動としての位置づけがされていない	・日常の多忙な事業に流されがちで調査研究を特別なこととしてとらえている
B 問題の把握と明確化 1.地域におきている現象・問題を感じとる 2.現象・問題が生じた背景、原因を把握する 3.問題間の関係を整理し、総合的にとらえる 4.問題の中から解決すべき課題を特定する 5.課題解決に関連するデータ・情報を収集する 6.文献、関係者などを通じ既知の情報を調べる	・自分の担当業務は把握しやすいが他の係・課の業務は把握しにくいので、問題を総合的にとらえにくい ・他から得られる情報も加えて、総合的に考えられない	・地域の問題が研究課題に結びつかない	・普段取り組んでいる業務の中で問題意識が持続しない
C 目的・目標の設定 1.課題を調査・研究のテーマに結びつける 2.調査の目的・目標を具体的に表現する 3.調査・研究によってどのような結果が得られそうか予測する	・研究課題と実践業務との関連がうすい ・期限等の条件によって目的が阻まれる	・目的・目標設定が主体的にできない ・目的・目標設定が難しい	・目的目標が抽象的で、具体的な表現がされにくい ・仮説を立てる作業を省略してしまいがちである
D 調査の実際 1.研究の対象者を選択する 2.目的にあった調査・研究方法を選択する（統計調査か事例調査か） 3.目的に応じたデータ収集の方法を選択する（観察法か質問法か等） 4.目的に応じた調査表等を作成する 5.予備調査等の結果により方法や内容を修正する	・目的と調査の実際との関連が低い ・細かいことにとらわれ、目的が不明確になりやすい	・indicatorのとり方に問題がある ・抽象的な概念を具体的に表現すること	・調査票作成が難しい
E 結果の分析と解釈 1.目的に応じて収集結果を分析する 2.目的に照らして明らかになった事柄を示す 3.調査結果と分析結果を解釈する	・結果分析にあたって目的を見失いがちである ・調査・結果に基づいて解釈を行うことがある	・コンピュータを使うことが不慣れである	
F 結果のまとめ 1.目的から結果まで論旨が一貫している 2.わかりやすい、読みやすい文章・図表を作成する 3.報告書を作成する 4.結果を地域住民、関係者に報告する 5.結果を研究誌等に発表する 6.結果を保健計画や事業計画等に生かす	・他職種、他機関にも理解できるまとめ方が求められている ・保健婦の「思い」で文章化しがちである		・報告書の作成が難しい ・結果を各種計画等に活かすことが難しい ・各種協議会に示すため、住民にもわかるようなデータを含めてまとめる
G 調査・研究のマネジメント 1.取り上げる課題の意義を周囲に説明する 2.調査・研究計画書を作成する 3.調査・研究の円滑な実施に向け、職場内の合意形成や進行管理する 4.調査・研究を保健婦業務として位置づける 5.研究費の予算化ができる 6.調査・研究の指導者の協力を得る 7.研究的視点から業務の評価が行えるよう後輩を指導する	・日常業務を調査・研究につなげていく姿勢が求められる ・調査・研究の意義について職場内の合意を得る必要性 ・所長の指導力に頼る傾向がある ・事務職の理解を得ることが難しい	・調査研究の位置づけがなされていない ・調査・研究の推進にあたり、リーダーシップがとれない ・調査・研究を個人で抱え込むことがある	・研究計画書の作成することが難しい ・研究費の予算がとりにくい

D

E

F

G

H

50歳代 課長級	50歳代 課長級	50歳代 課長補佐級	50歳代 課長補佐級	50歳代 課長補佐級
<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査研究への動機付けが低い</li> <li>・日常の保健婦活動の充実につながるとい意味づけが弱い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業が多忙のため、研究テーマを持ちながら業務に臨む事が難しい</li> <li>・調査が実態把握や事業報告的になりがちである</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多忙のため、調査・研究に取り組むことが十分にできない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健所内で調査・研究の位置づけがはっきりしていない</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題と感ずる感性が弱い</li> <li>・既存データから問題を総合的に捉え直す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に起きている問題を、課題として感じたり、まとめたりすることができない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文献検索が不十分であり、自分たちの範囲内で判断する事が多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務分担制のため他業務との関連性など総合的に問題が把握しにくい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題が生じた原因・背景の把握することが難しい</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・仮説の設定をどこにおくかが迷う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的・目標について、明確に記述できない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仮説がきちんとしていない</li> <li>・結果の予測が十分に検討されにくい</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査の目的を明確にできない</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の課題を明らかにするための適切な調査対象・内容の選択が難しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的・目標に応じた設問項目が作成できない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疫学の知識が十分でない</li> <li>・質的な研究が難しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査目的により、調査方法を選択する</li> <li>・目的に応じた調査項目を設定するのが難しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を浮き彫りにする調査票の作成が難しい</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・分析方法に自信がない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比較をする群を見極めるのが難しい</li> <li>・目的とはずれた分析を行いがちである</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分析結果の解釈を経験の範囲内で行う傾向がある</li> <li>・OAの操作が慣れていない</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一貫した論文作成が難しい</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・難しい文章になってしまう</li> <li>・時間が十分にとれない</li> <li>・調査結果が他機関に影響を及ぼすものにならない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめ方に自信がもてない</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・他部署から調査研究に対する理解が低い</li> <li>・身近に協力者がいない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常に調査・研究を意識しないと取り組めない</li> <li>・調査・研究に関する能力に個人差が大きい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査・研究の実施にあたって、組織内の調整が難しい</li> <li>・日常業務に追われ余裕がない</li> <li>・適切な指導者がいない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査する意義について他職種を理解を得にくい</li> </ul>	

表 3-2 1 スタッフ保健婦が調査・研究を推進していく上で困っていること、課題と思っていること（スタッフ保健婦の判断）

	A	B	C
	20歳代 保健婦	30歳代 技師	30歳代、40歳代 主任技師
<b>A 調査・研究の意義</b> 1. 調査・研究する必要性・意味を理解している 2. 調査・研究の位置づけが明確である	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究を行う意義や目的が明確にならない</li> <li>何かきっかけがないと研究に取り切れない</li> <li>現場で実数で対応することが日常的にできていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的目標をチーム内のメンバーと合意を得ることが難しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当業務と平行して調査・研究を実施することは難しい</li> </ul>
<b>B 問題の把握と明確化</b> 1. 地域におきている現象・問題を感ずる 2. 現象・問題が生じた背景、原因を把握する 3. 問題間の関係を整理し、総合的にとらえる 4. 問題の中から解決すべき課題を特定する 5. 課題解決に関連するデータ・情報を収集する 6. 文献、関係者などを通じ既知の情報を調べる	<ul style="list-style-type: none"> <li>文献や資料の学習が不十分である</li> <li>身の回りの参考図書で終わってしまう</li> <li>文献の活用が多面的でない</li> <li>地元には大学がないので文献を幅広く探すが困難である</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他部署からの情報収集が難しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の問題を十分に把握しないまま実施している</li> <li>対人サービスの低下により地域の問題を感じ取ることが難しい</li> <li>事前に情報収集を十分に行うことができないため、仮説も明確にされない</li> <li>保健所では文献検索ができない</li> </ul>
<b>C 目的・目標の設定</b> 1. 課題を調査・研究のテーマに結びつける 2. 調査の目的・目標を具体的に表現する 3. 調査・研究によってどのような結果が得られそうか予測する	<ul style="list-style-type: none"> <li>感している現象・問題が研究のテーマに結びつかか判断が難しい</li> <li>どこまでを知ろうとするのか目的・目標の絞り込みができない</li> <li>キーワードが明確にできない</li> <li>研究結果が他職種の実務にも関連すると予測されると、意義が失われてしまうと考えがちである</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的・目標が既に決められていることが多いため、検討する機会が少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的・目標を具体的に表現することが難しい</li> <li>事前に情報収集を十分に行うことができないため、仮説も明確にされない</li> <li>調査を実施するにあたり、問題の予測が難しい</li> </ul>
<b>D 調査の実際</b> 1. 研究の対象者を選択する 2. 目的にあった調査・研究方法を選択する（統計調査が事例調査か） 3. 目的に応じたデータ収集の方法を選択する（観察法が質問法等） 4. 目的に応じた調査表等を作成する 5. 予備調査等の結果により方法や内容を修正する	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究課題を明らかにするため、対象者の選択が適切であるか不安である</li> <li>どの調査方法が最も適切かわからない</li> <li>調査方法に対する知識や技術が不足している</li> <li>質問項目の設定など調査票の作り方に自信がない</li> <li>経験不足のため、目的にあった調査票の作成が難しい</li> <li>結果分析の時に、設問のまずさや不足を感じる人が多い</li> <li>分析を想定して調査票の作成ができていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>上司とスタッフ間での、調査の考えに差がある</li> <li>従来の調査・研究（看護協会等）に多少手を加えてつくる</li> <li>時間に余裕がないため、既存の調査・研究方法を参考に実施していることが多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的に応じた調査票等の作成が難しい</li> <li>人手不足である</li> <li>関係機関との調整、連絡に手間取る</li> </ul>
<b>E 結果の分析と解釈</b> 1. 目的に応じて収集結果を分析する 2. 目的に照らして明らかになった事柄を示す 3. 調査結果と分析結果を解釈する	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業詳細の数値化が求められているが、できていない</li> <li>数値化したものを解釈することが難しい</li> <li>印象でものをいってしまう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>解析を他職種にまかしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的に応じた分析の視点や分析方法の選択が難しい</li> <li>調査対象者が多い場合の分析方法の選択が難しい</li> </ul>
<b>F 結果のまとめ</b> 1. 目的から結果まで論旨が一貫している 2. わかりやすい、読みやすい文章・図表を作成する 3. 報告書を作成する 4. 結果を地域住民、関係者に報告する 5. 結果を研究誌等に発表する 6. 結果を保健計画や事業計画等に生かす	<ul style="list-style-type: none"> <li>分析結果の書き方、データの示し方をわかりやすく示す技術が不足している</li> <li>第三者にもわかる文章作成ができていない</li> <li>関心を持った人に目的をは何だったかを繰り返し聞かれた</li> <li>発表・報告の経験が乏しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人で抱え込んでしまうため、時間がとられる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>結果のうち優先する項目を選択する</li> <li>わかりやすい文章図表の作成が難しい</li> <li>図表の作成をどの部分をどのように表現すればよいか</li> </ul>
<b>G 調査・研究のマネジメント</b> 1. 取り上げる課題の意義を周知に説明する 2. 調査・研究計画書を作成する 3. 調査・研究の円滑な実施に向け、職場内の合意形成や進行管理する 4. 調査・研究を保健婦業務として位置づける 5. 研究費の予算化ができる 6. 調査・研究の指導者の協力を得る 7. 研究的視点から業務の評価が行えるよう後輩を指導する	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究目的が明確でないと、突効性のある研究計画書を作成することは難しい</li> <li>リーダーの選定が不適切であると、チームとしての合意を得るのが難しい</li> <li>年度予算で準備していないと調査・研究はできない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健婦中心でやっている傾向が多い</li> <li>上司やスタッフとの合意形成が難しい</li> <li>上司の求めるレベルが高い</li> <li>時間外にやらなければいけない</li> <li>他部署との調査・研究の合意が得にくい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査研究を業務に位置づける</li> <li>タイムスケジュールや予算の配分を含めた研究計画書を作成する</li> </ul>

D

E

F

G

H

30歳代、40歳代 技師、主査	30歳代 技師	スタッフ4人	40歳代 保健師長	40歳代 主任保健師、保健師
		・多忙な業務の中、調査・研究する意欲を見出しにくい		・調査・研究の意義は、経験しないとうわやりにくい ・チーム間に調査・研究に対する意識のずれがある
・地域へ出ていく機会が少ないため、地域でおきている現象、問題を感知することが困難である ・業務担当前により地域の実状がつかみにくい ・対人サービスの減少により問題把握が困難になってきた ・所内に図書が少なく、他機関に依頼して文献検索をする余裕がない ・文献が入手しにくい	・保健師の視点で地域の問題を感知することはできるが、それを研究的に整理したり、課題を明らかにする事が難しい ・背景となるデータや必要情報の収集が難しい	・問題の背景・原因を明らかにするための情報・知識が十分ない ・情報収集の手段が限られている ・文献検索が十分でない	・課題解決にあたっては、具体性、客観性が求められることを考えて結論を出す必要がある。 ・目的・目標は抽象的なものになりがちである	・実態調査の中から課題を特定するのが難しい ・原因を把握することが弱い ・データの蓄積が少ない ・文献検索になれていない
・目的・目標の設定が不十分であると、結果が活動に生かされなくなる ・仮説を立てることが難しい	・研究の見通しが持てない	・結果の予測について、十分検討していない	・目的・目標の設定をする	・集団での目的・目標の共有化は難しい
・対象者の選定をどうしたらよいか解らない ・調査実施にあたって対照群が抜けがちであった ・調査項目が膨大になると本来の課題を見失ってしまうため ・調査項目の分量が多かった ・参考となるような既存の調査票の入手が難しい ・予備調査等をする時間がない		・調査方法の選択が難しい ・仮説が不明確なため調査項目に一貫性がない ・目的に応じた調査票を作成するのが難しい	・目的に応じた調査項目の作成が難しい ・対象者に理解できる設問の表現が難しい ・プレテストを行う余裕がとれない	・調査内容が目的からずれて多くなりがちのため、焦点をぼらす必要がある ・複数で調査する場合、調査用ガイドの必要性を感じた ・結果を予測した調査票の内容の作成が難しい
・データの解釈を客観的に行うことが難しい	・得られたデータの分析にあたり、目的からはずれないように分析することが大変である	・分析にあたって、どのようなソフトを活用するかわかっていない ・課題を明らかにするための分析方法が難しい ・データの解釈が正しいか迷う ・他の地域との比較が十分になされていない	・収集結果を分析する事が難しい ・分析のプロセスに慣れていない ・分析解釈して得られた事実とそこから考えられることを客観的に捉えることが難しい	・テーマにそったデータ分析方法の選択が難しい ・結果のうちどの情報を使ったらいいか判断が難しい ・検定の方法の理解が不十分である ・統計ソフトが十分に使いこなせない
・目的から結果まで一貫して考えていくことが難しい ・調査結果を計画等に生かすににくい	・まとめが主観的になりやすい	・論旨を明確にすることが難しい	・読んだ人に解るような文章作成が難しい ・論文作成が難しい	・目的に合った論文作成が十分でない ・まとめの内容が、目的とずれがちである ・沢山のデータを活用しがちである ・プレゼンテーションするためのソフトに関する情報不足がある ・わかりやすく、読みやすい文章作成が難しい
・各分野と共同して実施すると調整に時間がとられる ・保健師が多数は位置されたことにより、合意形成や進行・管理が難しくなった ・調査協力機関との調整が難しい ・担当業務以外のテーマの研究をしようとする場合、予算化が難しい ・指導者が少ない	・研究テーマに沿った適切なアドバイスがもらえる指導者を知らない ・「スーパーバイズを受けたい」と思うが適当な指導者が周りにいない ・予算の活用についても熟知していない ・メンバーの総意による進行管理が難しい		・所内におけるマネジメントが難しい ・異動があるため、調査・研究の経過の引継が難しい	・日常的には指導的立場の人材が不足している ・課内の担当者間では合意形成しやすいが、他課との調整が難しい ・調査・研究が保健師の役割と思っている人が多い、

表 3 - 3 2 指導的立場の保健婦が実施した指導・助言内容  
 (指導的立場の保健婦の判断)

の  
 易

A

B

C

	50歳代 係長級	50歳代、40歳代 課長級	50歳代 課長補佐級
<b>A 調査・研究の意義</b> 1.調査・研究する必要性・意味を理解している 2.調査・研究の位置づけが明確である	・研究に着手するのが大変であると考えないように、助言する ・助言者等を確保し、不安が少なく取り組める体制をつくる ・年間の事業に組み入れる	・日常活動における研究の意義、位置づけなどの関係性について説明する	
<b>B 問題の把握と明確化</b> 1.地域におきている現象・問題を感じとる 2.現象・問題が生じた背景、原因を把握する 3.問題間の関係を整理し、総合的にとらえる 4.問題の中から解決すべき課題を特定する 5.課題解決に関連するデータ・情報を収集する 6.文献、関係者などを通じ既知の情報を調べる	・他機関・他職種の情報積極的に得る	・課題を整理させるために具体的な事例に基づき、事例分析を共に行う ・保健婦活動の中から課題を出させ、問題解決の方法を考えさせる	・課題の意識づけと問題整理 ・情報の収集及び課題の検討にあたって助言している
<b>C 目的・目標の設定</b> 1.課題を調査・研究のテーマに結びつける 2.調査の目的・目標を具体的に表現する 3.調査・研究によってどのような結果が得られそうか予測する	・保健婦同士で話し合い、表現させる ・目的・目標の設定にあたって関係者との話し合いをもつ ・期限内で実施できる調査内容にする	・自分なりに目的・目標を記述させ、修正を加えていく ・個別に指導を行う	・問題の再整理を助言する ・目的・目標の設定において常に動機に立ち戻るよう助言する
<b>D 調査の実際</b> 1.研究の対象者を選択する 2.目的にあった調査・研究方法を選択する(統計調査か事例調査か) 3.目的に応じたデータ収集の方法を選択する(観察法か質問法等) 4.目的に応じた調査表等を作成する 5.予備調査等の結果により方法や内容を修正する		・調査の実際について、きめ細かく、具体的に指導する	・調査票作成時には、課題解決に必要な内容や対象者が記入しやすいものであるよう助言する
<b>E 結果の分析と解釈</b> 1.目的に応じて収集結果を分析する 2.目的に照らして明らかになった事柄を示す 3.調査結果と分析結果を解釈する	・データの読みとり、特に例外についても慎重に行うように指導している ・分析は、次への活動につながるように行う		
<b>F 結果のまとめ</b> 1.目的から結果まで論旨が一貫している 2.わかりやすい、読みやすい文章・図表を作成する 3.報告書を作成する 4.結果を地域住民、関係者に報告する 5.結果を研究誌等に発表する 6.結果を保健計画や事業計画等に生かす	・まとめにあたっては、様々な観点から意見をもらう ・内容により福祉・医療の関係者へも伝えるよう指導する	・目的に応じたまとめとなっているか、確認する	・目的、方法、結果、考察に一貫性があり、わかりやすいこと
<b>G 調査・研究のマネージメント</b> 1.取り上げる課題の意義を周囲に説明する 2.調査・研究計画書を作成する 3.調査・研究の円滑な実施に向け、職場内の合意形成や進行管理する 4.調査・研究を保健婦業務として位置づける 5.研究費の予算化ができる 6.調査・研究の指導者の協力を得る 7.研究的視点から業務の評価が行えるよう後輩を指導する	・日常業務を進めながら、研究にも取り組む姿勢が大切である	・1人で抱え込まなくてすむ体制をつくる ・やりづらいことを話させる ・人を巻き込むことが苦手である ・誰に依頼すれば最も的確に助言をしていけるか見極めるようアドバイスする	



D

E

F

G

H

50歳代 課長級	50歳代 課長級	50歳代 課長補佐級	50歳代 課長補佐級	50歳代 課長補佐級
		・保健婦活動を研究に結びつける動機づけをする	・保健所として課せられている業務であることを助言する	・調査研究の必要性を理解させる
・問題を明確にするため、既存の資料や関係者から聞き取る ・既存データから問題を総合的に捉え直す	・課題が明確化されるような気づきを与えたり、まとめ方の改善や工夫について具体的に話す		・他の業務に関する情報を提供する	・文献・情報を出来るだけ多く収集し、問題の把握に努める
・仮説の設定により質問項目が異なる ・作業仮説はまず大項目を立て、中項目、小項目を立てる			・調査の目的・目標を具体的に表現するよう助言する	
・調査票の作成にあたっては、文献を参考に地域の特性を考慮する ・目的・目標に沿った調査の実現可能性を吟味する	・調査項目は目的・目標に応じているか問い返す	・適切と思われる研究者を紹介する ・選択すべきデータ収集方法について助言する		
・ $\chi^2$ 検定の仕方について助言する	・結果・分析については、目的に照らした内容となっているか助言する		・分析で取り上げる項目の選択に助言する ・既存のデータを分析する方法を示す	
・学会発表用の抄録分を作成してみることを手始めとし、点検・削除をする ・市町村の健康まつり等で結果について報告する	・図表については、具体例を示す	・作成されたまとめを修正する	・強調したいこと中心にまとめるようにした ・論旨の展開について助言した	・調査研究結果の報告書を分かりやすく作成し、必要に応じ関係者に報告し保健計画に生かしていくことが大切である
・調査・研究の予算として、国庫補助を活用する		・保健所として調査・研究機能を強化する必要がある		

表3-4 2 指導的立場の保健婦が実施した指導・助言内容  
 (スタッフ保健婦が受けた指導・助言内容)

	A	B	C
	20歳代 保健婦	30歳代 技師	30歳代、40歳代 主任技師
A 調査・研究の意義 1.調査・研究する必要性・意味を理解している 2.調査・研究の位置づけが明確である	・大学の先生の指導を受けた	・市町村支援が調査研究につながっている	・検討委員会の学識者から必要時助言を得る
B 問題の把握と明確化 1.地域におきている現象・問題を感じとる 2.現象・問題が生じた背景、原因を把握する 3.問題間の関係を整理し、総合的にとらえる 4.問題の中から解決すべき課題を特定する 5.課題解決に関連するデータ・情報を収集する 6.文献、関係者などを通じ既知の情報を調べる	・参考文献・既存資料の紹介 ・看護大学の図書を活用した ・関係者から資料をもらった	・課題の意義を理論立てて説明できるよう指導を受ける ・優先順位を決めて実施するように助言を受ける	・日常業務の中で感じていることをデータ化し課題を明確にする ・関連する情報と資料を収集する ・地域の実情に詳しい人の紹介をうけた ・協力を得る他機関との交渉についての助言を得た
C 目的・目標の設定 1.課題を調査・研究のテーマに結びつける 2.調査の目的・目標を具体的に表現する 3.調査・研究によってどのような結果が得られそうか予測する			・何を明らかにしたいのか目標を具体的に現し、結果を予測する ・目的を焦点化する ・学識者に問題現状を理解してもらいながら助言を受ける ・結果の予測と保健婦活動を結びつけて考えるようにする
D 調査の実際 1.研究の対象者を選択する 2.目的にあった調査・研究方法を選択する(統計調査か事例調査か) 3.目的に応じたデータ収集の方法を選択する(観察法か質問法等) 4.目的に応じた調査表等を作成する 5.予備調査等の結果により方法や内容を修正する		・調査の実施にあたり、きめ細かく具体的に助言してくれる	・調査実施により起こりうる事柄を事前にふまえた上で計画的に進める ・実際に調査する前にプレテストを行い内容の確認修正を行う ・調査項目が、目的・目標・予測する結果を導き出せる内容になっているかを確認された
E 結果の分析と解釈 1.目的に応じて収集結果を分析する 2.目的に照らして明らかになった事柄を示す 3.調査結果と分析結果を解釈する		・研修を受講する	・研究の分析方法の助言 ・目的が明確になるようにデータを分析解釈する ・多方面からの分析を試みる
F 結果のまとめ 1.目的から結果まで論旨が一貫している 2.わかりやすい、読みやすい文章・図表を作成する 3.報告書を作成する 4.結果を地域住民、関係者に報告する 5.結果を研究誌等に発表する 6.結果を保健計画や事業計画等に生かす	・目的と結果とが一貫しているか指導を受けた	・論旨の一貫性について、助言してくれる	・わかりやすい文章の工夫や図表のあらわし方について ・目的が明確になるよう考察について助言を受ける ・まとめの案を作成し、まとめにあたり多くの人から意見をもらう ・客観的立場から論旨の一貫性をみるようにする
G 調査・研究のマネージメント 1.取り上げる課題の意義を周囲に説明する 2.調査・研究計画書を作成する 3.調査・研究の円滑な実施に向け、職場内の合意形成や進行管理する 4.調査・研究を保健婦業務として位置づける 5.研究費の予算化ができる 6.調査・研究の指導者の協力を得る 7.研究的視点から業務の評価が行えるよう後輩を指導する	・上司の理解を得るために学識者を含めた話し合いの場を設けた ・定例打合せを利用して、継続的に討論を進めた	・課題を特定するため、プロジェクトをつくる	・調査研究が円滑に進むための対外的交渉、職場内で合意形成のための指導・助言を受けた ・研究費を予算化する ・パート雇用の助言を受けた ・パート雇用の予算を十分に確保できた

D

E

F

G

H

30歳代、40歳代 技師、主査	30歳代 技師	スタッフ4人	40歳代 保健婦長	40歳代 主任保健婦、保健婦
				<ul style="list-style-type: none"> <li>調査することになった背景、意義について助言があった</li> <li>前の担当者から引継ぎがあった</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健婦として感じた問題点を研究的視点で整理できるような助言をうけた</li> <li>課題を解決するための方策について助言をうけた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存の資料、データ分析について助言を受けた</li> <li>先行研究について情報を得た</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報を収集・分析し、自分の予測や推測を参考にしていく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報の入手先、方法について</li> <li>問題点を整理し、課題を共有する</li> <li>課題が見えるようなデータの分析をすること</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>課題の特定について助言を受けたことにより、目的・目標が明らかになった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>予測される結果に関する助言がほしい</li> </ul>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>分析方法について情報処理研修を受けた</li> <li>調査票(案)ができたところで助言を得て修正している</li> <li>他機関に対する協力依頼をしてもらった</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>調査票について、先行研究、専門的立場から助言を得た</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集計の事を考え項目を設定する</li> <li>アンケートの表現方法、追加項目について助言あり</li> <li>データ入力の手組み・検定について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの範囲まで調査するか、どう方法で対象者を抽出するのか</li> <li>チームで調査する際に方針を統一するためにガイドンスを作成すること</li> <li>目的に添った解析内容の検討</li> <li>目標にそった調査票を作成すること</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的からはずれないよう、分析したり、広い視野で解釈を加えるよう助言があった</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>クロス表の見方、結果の解釈を助言者と共に行った</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SPSSでの統計処理方法</li> <li>目的に応じた分析をすること</li> <li>課題が見えるようなデータの分析をすること</li> <li>データの解析が十分に出るよう訓練する</li> <li>機会あるごとに知っている人に聞く</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>図表作成に関する研修を受けた</li> <li>まとめの表現について助言を受けた</li> <li>原稿を修正してもらった</li> <li>会議等の場で報告するよう助言を得た</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>まとめ方について、先に結論を述べるように助言された</li> <li>強調すべき点を明確に表現する</li> <li>文章が出来上がった時点で助言された</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマにそったまとめ方について</li> <li>プレゼンテーションの方法について</li> </ul>
				<ul style="list-style-type: none"> <li>所長、課長レベル間の課題の共有化のため、会議の設置</li> </ul>

表 3 - 5 3 指導的立場の保健婦が行った指導・助言上の工夫

	A	B	C
	50歳代 係長級	50歳代 課長級	50歳代 課長補佐級
A 調査・研究の意義 1.調査・研究する必要性・意味を理解している 2.調査・研究の位置づけが明確である	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常業務の中にテーマがある事を意識できるように雑誌、紀要等を積極的に閲覧する</li> <li>・管内全体の合意形成を行う</li> <li>・管内保健婦研修会でプログラムに研究発表を組む</li> <li>・市町村代表で「研究委員会」をもち研究発表のプログラムに合意を取りつける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議のテーマとして研究の意義について関係者と検討する</li> </ul>	
B 問題の把握と明確化 1.地域におきている現象・問題を感じとる 2.現象・問題が生じた背景、原因を把握する 3.問題間の関係を整理し、総合的にとらえる 4.問題の中から解決すべき課題を特定する 5.課題解決に関連するデータ・情報を収集する 6.文献、関係者などを通じ既知の情報を調べる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データ・情報収集について管理者自身の個人ネットワークを日頃からつくる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導的な立場の人とプレ会議を行い、方向性を整理しておき、その後スタッフ間での検討を行う</li> <li>・先進地視察を計画する</li> <li>・地域の課題を明らかにするため図式化して説明する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の中で感じている問題を担当保健婦に問いかけ共に検討する</li> <li>・関連の情報・文献インターネットを活用して調べ示す</li> <li>・情報が得られそうな機関及び関係者を紹介する</li> </ul>
C 目的・目標の設定 1.課題を調査・研究のテーマに結びつける 2.調査の目的・目標を具体的に表現する 3.調査・研究によってどのような結果が得られそうか予測する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常業務の中に研究テーマがあることを実感させる</li> <li>・事業評価を的確に行うようにする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的・目標を文章化させる</li> <li>・テーマ、目的・目標、結果の予測の一貫性を確認する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所内会議で検討し、共同作業する</li> </ul>
D 調査の実際 1.研究の対象者を選択する 2.目的にあった調査・研究方法を選択する (統計調査か事例調査か) 3.目的に応じたデータ収集の方法を選択する (観察法か質問法等) 4.目的に応じた調査表等を作成する 5.予備調査等の結果により方法や内容を修正する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的や学問にフィードバックしながら進行</li> <li>・常に目的との関連性をみながらすすめる</li> <li>・調査・研究の基本的手法に即しているか確認を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマを与えて調査を実際に経験させる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査内容等について文献等を示す</li> <li>・専門家等の人材を確保し検討会議を実施する</li> <li>・必要に応じて専門家に意見を求め、最終調整をする</li> </ul>
E 結果の分析と解釈 1.目的に応じて収集結果を分析する 2.目的に照らして明らかになった事柄を示す 3.調査結果と分析結果を解釈する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結果の解釈は、事実の羅列に留まらないようにする</li> <li>・研究結果が保健婦業務に反映できるように考えさせる</li> </ul>		
F 結果のまとめ 1.目的から結果まで論旨が一貫している 2.わかりやすい、読みやすい文章・図表を作成する 3.報告書を作成する 4.結果を地域住民、関係者に報告する 5.結果を研究誌等に発表する 6.結果を保健計画や事業計画等に生かす	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめは調査結果に基づいて行う</li> <li>・管内保健婦研修会での発表を期に発表の仕方、論文作成を訓練させる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめにあたって文献を参考のために提供する</li> <li>・文章化したものを助言する</li> <li>・地域の特性考慮したまとめを行う</li> <li>・まとめは目的に応じて行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結果のまとめにあたっては、所内の関係者で検討する</li> </ul>
G 調査・研究のマネージメント 1.取り上げる課題の意義を周囲に説明する 2.調査・研究計画書を作成する 3.調査・研究の円滑な実施に向け、職場内の合意形成や進行管理する 4.調査・研究を保健婦業務として位置づける 5.研究費の予算化ができる 6.調査・研究の指導者の協力を得る 7.研究的視点から業務の評価が行えるよう後輩を指導する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・係内・課内の合意形成の場をつくる</li> <li>・研究計画書と同時に予算書を作成する</li> <li>・研究能力を高めるために業務担当を経験に差のある者で組み、先輩が後輩を育てる</li> <li>・業務と研究をセットで進める</li> <li>・研究について理解を得るために保健婦外でも学会参加を図る</li> <li>・希望者を募り、指導者(所長、看護の先生など)から論文作成までのプロセスを学習する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査・研究の理解を得るために関係者に振り返りをする</li> <li>・視点を変えるよう助言をする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査・研究のプロセスにおいて必要時所長から助言をもらう</li> <li>・テーマによって専門家にも構成員として検討に加わってもらう</li> <li>・関連する研修の受講を勧める</li> </ul>